

福島第一原子力発電所廃炉検討委員会セッション

「福島第一原子力発電所廃炉検討委員会」廃炉に向けた技術開発の現状
Progress of R&D for the decommissioning of The Fukushima Daiichi NPS

(1) 公開シンポジウム報告

(1) Symposium (2019) report

*浅沼 徳子¹¹廃炉委運営タスク，東海大学

1. はじめに

2011年3月11日に発生した東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所の事故から8年が経過した。福島の復興と福島第一原子力発電所の廃炉作業は計画に従い、鋭意取り組まれている。日本原子力学会は、福島第一原子力発電所廃炉検討委員会（以降、廃炉委）を設置し、廃炉作業において解決すべき重要な課題の解決に向けて、廃炉の実施組織と積極的に意見交換を進めるとともに、多くの学協会と協働して、復興と廃炉を支援すべく積極的に取り組んでいる。また、課題を共有し広く意見を募る場として公開シンポジウムを毎年開催している。ここでは、2019年3月9日に開催した第4回シンポジウムの概要を報告する。

2. プログラムの概要

福島第一原子力発電所の廃炉作業は、2021年内には重要な汚染源である燃料デブリを格納容器の中から取り出すことに着手する計画であり、2019年度内には工法を確定することとなっている。この活動は、世界でも初めての取り組みであり、様々な課題をもたらしている。廃炉委では、この廃炉作業における重要な課題のいくつかについて、定期的にワークショップを開催し議論を進めてきた。今年で4回目となるシンポジウムでは、「確実な廃炉のために今すべきこと」をテーマに、ワークショップでの議論から得られた成果を紹介するとともに、国の補助事業における研究開発の状況や廃炉における国際協力について取り上げた。以下に、プログラムを示す。

シンポジウム「東京電力福島第一原子力発電所の廃炉－確実な廃炉のために今すべきこと－」

日時と場所：2019年3月9日(土) 13:30～17:00 機械振興会館 多目的ホール

開会の挨拶

講演1：事故炉の廃炉の全工程とホールドポイント

講演2：事故炉の安全確保と管理目標

講演3：廃炉とサイト修復の最終の姿に向けた廃棄物の取り扱い

講演4：自然現象に対する事故炉の安全性評価

講演5：新技術への挑戦－国の補助事業による研究開発

講演6：国際協力への提案

質疑応答と閉会の挨拶

3. まとめ

公開シンポジウムは、学会として分かりやすく情報を提供し、広く意見を募る場として毎年開催している。ここで得られた意見を、課題解決に向けた取り組みにつなげ、今後の支援活動ならびに廃炉事業に役立てていく。

*Noriko Asanuma¹¹Tokai Univ.